

# 熊本弁「えず」冒話

江津湖ローカルの店名など近所住民以外にはあまり分からない設定になっております。

S・シーン解説      Nナイシヨン

出演者

浦島太郎

がき1 / がき2 / がき3

タヌキ

ペリー艦長(アメリカ人) / 乙姫はあさん

Nむかしむかしそーんむかし江津湖が海じゃったころん話たい。

働きもんの浦島太郎ていつそら、かつよか青年のおっただけな。

ある日江津湖海岸に太郎が船を泊めて魚はおろしよると近所の悪がきどもが、タヌキはいじめよったてたい。そーん時間の流れに狂いが訪れて…

-----  
がき1…「んタヌキはかちかち山からほーて逃げ出してきたとたい。」

がき2…「おんはだまくらかしてばーさんは痛めつけつかぬ。」

がき3…「ほーんに悪かタヌキたい。」

太郎…「うひうひ、いじめたらいかに。」

タヌキ…「あーありがとじいちゃん。わたしはそいつのタヌキではなく、じいちゃん寺のタヌキじいちゃんです。」

がき1…「しそばっかしく、すんなら証拠みせてみなは、ひ。」

Sタヌキ前をはたいてでかいおなかを叩いてみせる。

がき2…「たぬきはみんなじいばい、信用できるかいた。」

がき3…「おんたちやタヌキ汁って食ったじいないけん、な。」

とタヌキを覗き込む。震えるタヌキ

太郎「この水前寺海苔はやるけん、そんタヌキは放してやらなっせ。」

S悪がきども集まって相談のふり、そして

がき1…「おら水前寺海苔よか金龍のラーメンがよか。」

がき2…「おら広東の中華」トス

がき3…「おらあ、尾形料理店の和食セットがよか。」

Nメイメイ勝手なじいばいりいりますが、この劇はみてるお客さんは

会場のバザーがよからうって思いますが。。

太郎「そぎちゃんゆつなら、水前寺海苔は売ってお金に代えればよかた。」

がき1「うん、それもよかな。最近、美食ブームで高くなってくれるかも。」

がき2「じゃ、おんなん、そいつはば、うんか。」

太郎「もう、今時のがきは金、金って、そっぽかりもあーめぐるじか。」

S「言って水前寺味付海苔をわたす。」

たぬき「ありがとじいちゃん。」

「おれ、私の田舎、この案内、いたしまじい。」

太郎「独り言…あー、もしかしたら龍宮城にでもつれて行くてくれるの、だろ、うんか。」

…つとすると、たぬきの国の乙姫さまと飲めや、歌えやの大歓迎がまつてるじいちゃん。へい。」

たぬき「浦島太郎さん、何か独り言ばいじいちゃん。大丈夫かなあ。」

たぬき「ペリーさんの舟ののっ、一緒に、タルばいじいちゃん。」

浦島太郎「なんてな、確か、背中」のって連れて行ってくれるのではなかったかな。ああ、うん。」

たぬき「ペ、ペ、ペ。」

たぬき「あ、やばい、アメリカの舟が近づいてきやする。」

ペリー艦長「うら止まわ、そのノボノボ、日本ガイドライン」のっ、うん、臨検をおい、うん。」

おっほん、おまえら、うん、うん。」

たぬき「ほい、この方を、私のぶるわん。」

ペリー艦長「じゃ、おまえら、俺と一緒に、鬼退治にいかなか。ちよいと、最近、ヨーロッパの「ト、ト」」

で仕事ばしよつたじい。」

ペリー艦長「ほい、ツールと柿の種、じゃ。」

たぬき「あ、うん、そー、うん、じゃあ、おつかない、じゃあ、家来にしてください。」

ペリー艦長「よしよし、そっちは、おん、おん、おん、一緒に、行ったら鉄砲も撃たせてやるわ。」

